

I. 活動成果及び今後の課題

(注) 各項目の記述には必要な分量のスペースを使ってください。

(1) 活動成果

本公演の狙いのひとつであった現代音楽界隈に限らない聴衆の発掘に関して、大きな成果があった。ゲストの野田に惹かれた方、現代演劇などの公演で行ったチラシ折り込みを見て興味を持たれた方など、普段現代音楽および音楽の公演に足を運ぶことが少ない聴衆に対し、多角的な視点での音楽体験を提示できた。

また、美術館・アート情報のウェブマガジン「artscape」にて山崎健太氏によるレビューが掲載された。（添付資料参照）

そのほか他団体への影響として、本公演の観客であった演劇カンパニー「ヌトミック」主催の額田大志による「ヌトミックのコンサート」（9/8 東京・三鷹のSCOOOLにて開催）にて、本公演のために作曲した楽曲の再演がなされ、好評を得た。

(2) 今後の課題

チラシの折り込み先、配布期間などの広報策をより有効なものにし、印刷部数は多くなくともより効果的にできる余地がある。それらの改善によって、印刷費の削減およびより共振度の高い未知の聴衆へ広報することが可能であると考える。関東および名古屋の、各地域の事情や文化をより詳細に調査し、今後策を練りたい。

また、ゲストや新作初演の作家を公演の魅力の大きな部分としてきたが、「いまいけぶろじぇくとの公演」自体が魅力あるものとして認知されるよう、アーカイブの公開、広報の手法等を考えていくとともに、今村・池田の個々の活動や作品の魅力や価値を高めていく必要もあると考える。

II. 支出報告 (使途、数量等を具体的に摘要欄に記入して下さい)

費 用	金 額	摘 要
(1) 会 場 費	4 万円	東京公演会場費
(2) 印 刷 製 本 費		
(3) 旅 費 交 通 費		
(4) 謝 金		
(5) その他	3.2400 0.7600	チラシ折り込み委託費 郵送料(助成金外支出547円)
合 計	25	

※上記に記載された支出の事実が分かる領収証のコピーを添付してください。

記録写真等貼付欄（画像印刷可）

活動の様子を記録した画像・写真等がある場合は、このスペースに貼付してください。

※スペースが足りない場合は、別途添付してください。

お送りいただいた写真等は原則として返却いたしませんのでご注意ください。



岩渕貞太：身体奏法/stick [第5回公演委嘱作品再演]
(2017) (演奏：野田・池田) 演奏風景

池田 萌：いちご香るふんわりブッセ
/うさぎのまくら クリーム金時 (2018)
(演奏：野田・今村) 演奏風景



松平頼暁：Why not? (1970)
(演奏：野田・今村・池田) 演奏風景

Google カスタム検索

全ページを検索



文字の大きさ

A A A



ホーム > レビュー／プレビュー > artscapeレビュー > いまいけぶろじぇくと第7回パフォーマンス・デュオ公演『ずれる、ずらす、ずらされる』

artscapeレビュー

いまいけぶろじぇくと第7回パフォーマンス・デュオ公演『ずれる、ずらす、ずらされる』

2018年07月01日号

シェア LINEで送る ツイート

会期：2018/06/16

SCOOL [東京都]



いまいけぶろじぇくとは作曲家兼パフォーマーの今村俊博と池田萌による現代音楽のユニット。2014年以降、半年から1年に1回のペースで公演を続けている。

二人が「演奏」する作品の多くはダンスや演劇などのパフォーミング・アーツに近しい。私はその演奏を見ながら、地点や東京デスロック、contact Gonzo、あるいはベケットといった名前を思い浮かべていた。今回演奏された作品のなかにはダンサーの岩渕貞太に「作曲」を委嘱したものもあり、二人のレパートリーとなっている。

今回はゲストパフォーマーに梅棒の野田裕貴を迎えて、6人の作曲家による6曲を演奏した。ボイスパフォーマンスもあればチャンスオペレーションによる演奏もあり、バラエティに富んだ作品はそれぞれに興味深かったが、ここでは身体を酷使する今村・池田作品を紹介したい。

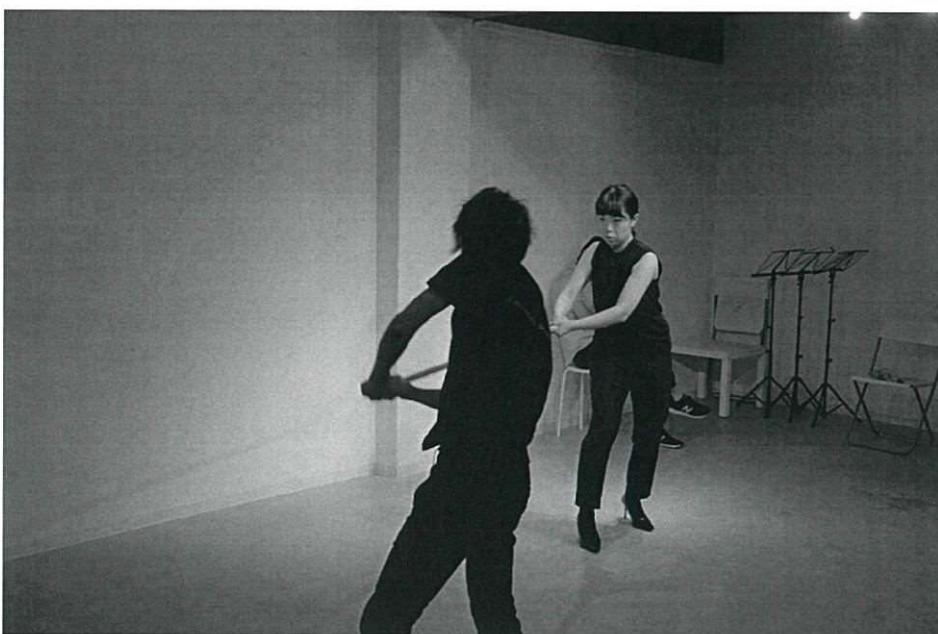
今村作曲の「数える人V」では二人の奏者が交互に馬跳びをし合う。奏者は自分が跳んだ回数をカウントしているのだが、それぞれ自分が跳んだ回数をカウントしているため、二人の唱える数字は一致したりひとつずれたりしながら、カウントは50まで続く。単調な繰り返しと疲労、微妙な数字のズレが奏者のミスを誘う。

池田作曲の「いちご香るふんわりブッセ／うさぎのまくら クリーム金時」は枕草子を暗唱する奏者にもう一方の奏者がコンビニスイーツを食べさせ続けるという作品。食べさせられる側はその都度、商品名を口にしなければならない。私が見た回はチョコケーキとプリンクレープ、もちもちスティック（？）にオレンジジュースという組み合わせだった。演奏はすべてのスイーツを食べ切るまで続く。

二人の取り組みの第一義は音楽を問い合わせることにあるのだろうが、身体に負荷をかけることで演奏に揺らぎをもたらす手法は、演劇やダンスにも応用可能な思考をはらんでいる。さらなる思考の交流のなかから未知の音楽が、演劇が、ダンスが生まれることを期待したい。

2018年07月01日号の artscapeレビュー

- ・人体—神秘への挑戦—
- ・地域のなかのアートな居場所
Aplus×ATLIA
- ・岩佐又兵衛 浄瑠璃物語絵巻
- ・岡村桂三郎展—異境へ
- ・21世紀の美術 タグチ・アートコレクション展 アンディ・ウォーホルから奈良美智まで
- ・猿樂と面 大和・近江および白山の周辺から
- ・GIRLS 毎日を絵にした少女たち
- ・ラコリーナ近江八幡
- ・ルーヴル美術館展 肖像芸術一人は人をどう表現してきたか
- ・琳派 —俵屋宗達から田中一光へ—
- ・JAGDA新人賞展2018 金井あき・花原正基・福澤卓馬
- ・平田晃久展 Discovering New
- ・takeo paper show 2018 「precision」
- ・M&Oplaysプロデュース『市ヶ尾の坂——伝説の虹の三兄弟』
- ・ミラクル エッシャー展 奇想版画家の謎を解く8つの鍵
- ・KAAT×地点 共同制作第8弾『山山』
- ・第12回 shiseido art egg 富安由真展
- ・内海信彦展
- ・抗原劇場常備演目vol.1『ちはる』
- ・ゆうめい 父子の展示・公演『あか』
- ・第21回文化庁メディア芸術祭受賞作品展
- ・コトリ会議『しづかミラクル』



公式ページ：<https://goo.gl/1py5Fu>

2018/06/16（山崎健太）

・アート＆デザインの大茶会

・いまいけぶろじぇくと第7回パフォーマンス・デュオ公演『ずれる、ずらす、ずらされる』

・ダダルズ #1『MからSへ』

・犬飼勝哉『木星のおおよその大きさ』

ジャンルで見る

・美術

・写真

・建築

・パフォーマンス

・デザイン

・映像

・書籍・Webサイト

・その他

著者で見る

・飯沢耕太郎

・五十嵐太郎

・木村覚

・小吹隆文

・SYNK（デザイン）

・杉江あこ

・高嶋慈

・福住廉

・星野太

・村田真

・山崎健太

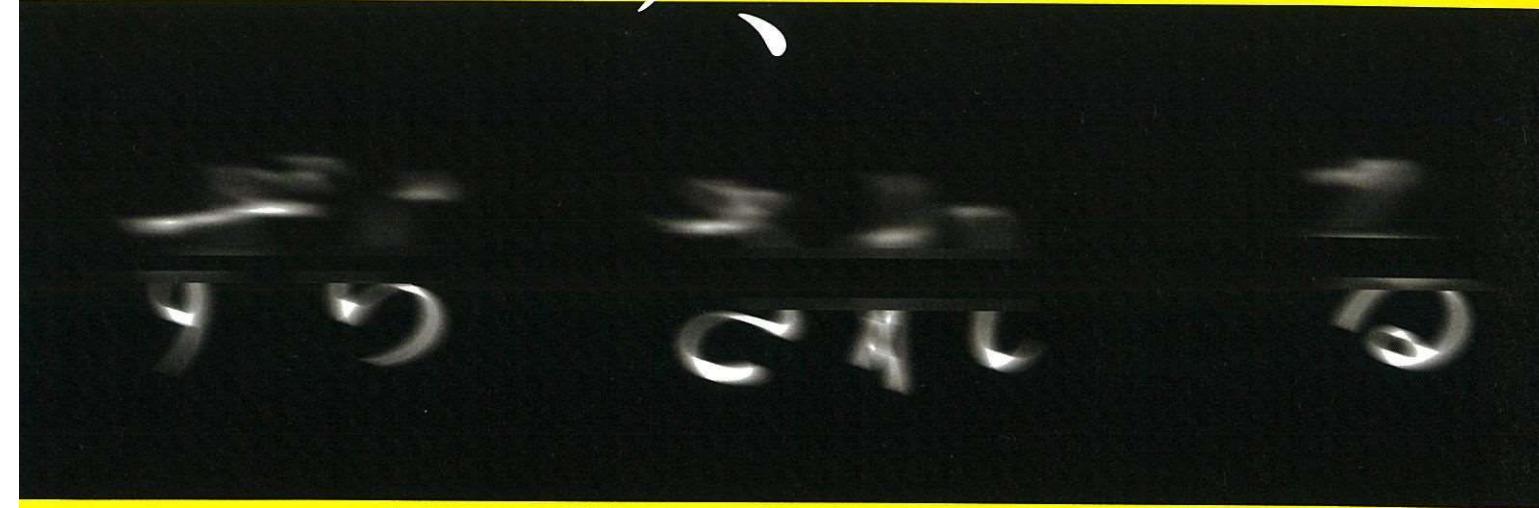
・artscape編集部

② artscapeレビューのバックナンバー
へ

される、

すらす、

すらす、



演奏曲目

今村俊博:数える人V(新作)…○・△

池田 萌:いちご香るふんわりブッセ／うさぎのまくら クリーム金時(新作)…○・□

鈴木治行:口々の言葉(2016年)…○・□

岩渕貞太:身体奏法／stick【第5回公演委嘱作品再演】(2017年)…○・△

松平頼暁:Why not?(1970年)…○・□・△

藤元高輝:そぼろ(2013年)…○・□・△

*曲順未定、演奏者表記=○野田裕貴 □今村俊博 △池田 萌

東京公演

2018年6月16日(土)

14:00開演(13:30会場)*アフタートーク:野田・今村・池田

19:00開演(18:30開場)*アフタートーク:佐々木 敦

会場:SCOOL <http://scool.jp>

名古屋公演

2018年6月17日(日)

19:00開演(18:30開場)*アフタートーク:黒崎 想

会場:K·D ハボン <https://kdjapon.jimdo.com>

料金:予約 一般3,000円／学生2,500円(当日 各500円増し)*名古屋公演は1ドリンク付

主催:まいけぶろじぇくと

助成:公益財団法人光山文化財団 公益財団法人ヤマノ文化財団

卓越した身体性を持ち、「俳優」「ダンサー」「振付家」など多ジャンルで活躍する野田裕貴を「演奏家」としてゲスト迎え、「身体」への着目から「音楽」を再考する。小豆をスローで運んだり、リコーダーを吹きながらケーキを1ホール食べたり、風船を膨らませたり、スクワットをし続けた棒を振り回したり、音感センサーを用いて木琴を演奏したり。今回は、野田裕貴と今村／池田の演奏を前提とした、メンバーによる新作、過去公演の委嘱作である振付家・ダンサーの岩渕貞太「身体奏法／stick」ほか気鋭の作曲家鈴木治行「口々の言葉」などをお届けす



野田裕貴 Hirotaka Noda／パフォーマンス

1988年埼玉県生まれ。俳優・ダンサー・振付家。

俊敏性としなやかさのどちらもを持ち合わせた高い身体能力と幅の広い演技力が持ち味である。現在はダンスエンターテインメント集団『梅棒』のメンバーであり、舞台を中心と幅広く活動している。旗揚げから2012年の解散までは『バナナ学園純情乙女組』のメンバーとして活動。「Legend Tokyo Chapter.2」にて最優秀作品賞・オーディエンス賞をW受賞。佐藤佐吉演劇賞2013優秀主演男優賞受賞。近年の出演作は、舞台「TOKYO TRIBE」、「浪漫活劇譚『艶漢』第二夜」、梅棒8th SHOW「Shuttered Guy」など。

いまいけぶろじえくと Imaike Project

作曲家兼パフォーマーの今村俊博(東京都在住)、池田萌(愛知県在住)によるユニット。2014年第1回公演「身体の魅力・無力・戦闘力」、2015年第2回公演「《祝祭》から《内省》へ」、2016年第3回公演「ふじもとくんといっしょ!」、第4回公演特別編「続・《祝祭》から《内省》へ」、2017年第5回公演「音楽のバウンダー」(TWSオープンサイト2016-17参加企画)、第6回公演「語る身体、語られる身体。」をそれぞれ東京・名古屋で開催。

今村俊博 Toshihiro Imamura／作曲・パフォーマンス

1990年大阪生まれ。作曲家・パフォーマー。東京藝術大学大学院美術研究科修了。作曲を井上昌彦、川島晴緒、古川聖の各氏に師事。第6回JFC作曲賞入選。現代音楽公演「in」、ギタリスト藤元高輝とのパフォーマンスデュオ「s.b.r.」など作曲、企画、またパフォーマーとして活動。「数える／差異／身体」をテーマに創作活動を展開。

池田 萌 Moe Ikeda／作曲・パフォーマンス

1986年石川県生まれ。作曲家、ヴォイスパフォーマー。石川県小松市立高等学校普通科芸術コース音楽専攻卒業、愛知県立芸術大学作曲専攻卒業。同大学主催の定期演奏会に作品を出品。IAMAS(情報科学芸術大学院大学)メディア表現研究科修了。第33回現音作曲新人賞入選。作曲を鈴木敬、鈴木英史、小林聰、寺井尚行、三輪眞弘の各氏に師事。

鈴木治行 Haruyuki Suzuki／作曲

東京都出身。1990年、作曲家グループTempus Novum結成。1995年『二重の鍵』が第16回入野賞受賞。2005年ガウデアムス音楽週間、2006年イタリアのサンタマリア・スオヴァ音楽祭、2009年ニューヨーク『Experimental Intermedia』に招待など、作品は国内外で演奏、放送されている。他ジャンルとのコラボレーションにも積極的で、これまでにも演劇、美術、映像などの共同作業を行ってきた。2014年11月にはケルンでサイレント映画『カメラを持った男』ライヴ、2015年には東京都庭園美術館にて参加型音響作品「饗宴のあと」を発表した。

岩渕貞太 Teita Iwabuchi／作曲

振付家・ダンサー。「身体の構造」や「空間や音楽と身体の相互作用」に着目した振付作品を発表する。大谷能生や蓮沼執太など音楽家と共に身体と音楽の関係性をめぐる実験作を継続的に発表。その他にもアニメーション作家・現代美術家など、他ジャンルの作家とのコラボレーションにも精力的に取り組んでいる。美術館や公園など劇場外でも空間の特性を活かしたパフォーマンスを発表。その他ワークショップの開催など多方面で活躍している。関かおりとの共同振付作品『Hetero』で、横浜ダンスコレクションEX 2012「若手振付家のための在日フランス大使館賞」を受賞。急な坂スタジオレジデントアーティスト。アトリエ劇研アソシエイトアーティスト。

アフタートーク・ゲスト

佐々木 敦 Atsushi Sasaki／批評家(東京公演)

1964年生まれ。批評家。音楽レーベルHEADZ主宰。『ex-music(L)』『同(R)』(アルテス・パブリッシング)、『「4分33秒」論』(Pヴァイン)、『シチュエーションズ』(文藝春秋)、『批評時空間』(新潮社)、『未知との遭遇』(筑摩書房)、『ニッポンの思想』、『ニッポンの音楽』(講談社現代新書)、『あなたは今、この文章を読んでいる。』(慶應義塾大学出版会)など著書多数。

黒崎 想 Sou Kuroasaki／批評家(名古屋公演)

1988年生、京都在住。「音楽学に捉らない音声論」を中心的な論題とし、批評を始めとした様々な活動を関西で展開。声優論「仮声のマスク」(批評誌『アーギュメンツ』連載)、活動弁士・片岡一郎氏による無声映画説明会「シアター13」など。現在販売中の『アーギュメンツ#2』では編集長を務めた。



チケットの申込方法

○氏名 ○ご連絡先 ○ご希望の公演チケット ○枚数をご記載のうえ、いまいけぶろじえくと事務局 (imaikeproject@gmail.com)までお申し込みください。

東京公演 SCOOL

東京都三鷹市下連雀3-33-6

三京ユニオンビル5F

<http://scool.jp>

■三鷹駅南口・中央通り直進3分
右手にある「おもちゃのふぢや」ビル5階

6月16日(土)の終演後、

ゲストを交えてのアフタートークを行います。
ゲスト: 佐々木 敦 (批評家、HEADZ代表)



お問い合わせ: いまいけぶろじえくと事務局
090-7747-6472 / imaikeproject@gmail.com

名古屋公演 K·D ハポン -空き地-

〒460-0012 名古屋市中区千代田5丁目12-7

PHS 070-5257-1324 / TEL (052)251-0324 / <http://kdjapon.jimdo.com>

■JR鶴舞駅北口より高架沿いに北上(千種方面)徒歩約3分

■同じく地下鉄鶴舞駅3番出口より徒歩約7分

*専用駐車場はございません。

6月17日(日)の終演後、ゲストを交えてのアフタートークを行います。

ゲスト: 黒崎 想

